

計画策定までの流れ

町内会役員や組長などが地域の代表として集まり、認定NPO法人レスキューストックヤードの協力を得て、ワークショップ（話し合い）を行いました。

地区の特性の確認

●地区の強み

- ・ご近所同士仲が良く、助け合いの意識が高い
- ・地域行事への参加率が高い

●地区の課題

- ・矢作川の決壊で最大5～10mの浸水
- ・南海トラフ地震で震度6強以上の揺れ
- ・地震の際に液状化の心配がある

災害時の課題の抽出

避難所はどんな場所なの？
何があるの？

自宅
で
避難
生活
は
できる
の？

志茂川の氾濫に
どう
備え
よう？



防災活動のアイデア出しと 企画書の作成

災害時の課題に対して、みんなで、今後地区で取り組みたい防災活動のアイデアを出しました。これをもとに3つの防災活動メニューの企画書を作成しました！

鹿乗町内会では、
令和4年度に
「地区防災計画」を
策定しました！

地区防災計画とは？

地区防災計画は、地域住民による自発的な防災活動であり、東日本大震災を契機に平成25年に創設されました。

過去の災害において避難や救命救助などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い、支え合いの「**共助の力**」を育む取り組みです。

これから鹿乗町内会で

取り組む防災活動メニュー

アンケート調査の実施

水害発生時の避難先として、どこを考えているのか、町内の全世帯を対象にアンケートで確認する。

「避難届けカード」の作成

自宅避難（垂直避難）を考えている方を対象に、情報の受け取り方法や福祉的配慮の有無などを把握するため、「避難届けカード」を作成する。

災害に備える

家庭での備蓄や、断水時のトイレの使用方法を周知し、自宅避難していることを知らせる目印（タオルなど）をつくる。

過去の災害を知る

令和四年に浸水被害に遭った方の体験談を聞く会を開催する。

避難のタイミングを学ぶ

台風・大雨の予測に関する情報の種類や入手・活用方法を学ぶ。

災害発生前に、高台へ自家用車を退避させる場合の気象条件等を周知する。

炊き出し訓練の実施

町の小学生・中学生に手伝いをしてもらい、百人分の炊き出しを作る。食材は各自が持ち寄る。

避難所の環境を知る

発電機の音の大きさや、断水時の汚物処理の方法を学ぶ。

危機意識を高める

水害で被災した方を招いて体験談を聞く。



命を守るための留意点
矢作川の氾濫等が発生した場合、この地区では5〜10mの浸水が想定されています。
志茂川以外に矢作川の水位の情報を収集し、大規模水害が想定される場合には、避難所への水平避難が確実にできるよう地域で検討しましょう！



地区防災計画づくりに参加した皆さんの声

ワークショップを通じて、災害が身近になったし、自分たちでもこんなことができるのだと気づいた。災害に対する意識が高まるいい機会になったよ。

防災の意識が高まったと思うよ。

志茂川の氾濫がどうして発生するのか良く分かったよ。氾濫対策が鹿乗町全体の問題としてクローズアップされたのがよかったなあ。



計画策定に協力したNPOからのメッセージ

全ての企画において、過去の被災経験の悔しさと学びを、次の世代に確実に活かしていきたいという地域の意気込みを感じました。

水害時の避難行動訓練や被災体験をまとめた冊子づくり、また、避難所体験会には、ぜひ子どもや女性の視点も積極的に取り入れると共に、災害時に配慮が必要な高齢者や障がい当事者の方々にも実際に参加して頂き、幅広い層の方々と一緒に取り組んでいけるよう工夫しましょう。